

玄関建具

日常のお手入れ

- ちょっとした不具合も、長時間放っておくと徐々に大きな痛みになるので、日頃から点検を心がけましょう。
- キズや塗装の剥がれをそのまま放置すると、本体の劣化を早めてしまうので、早めに対処しましょう。
- 表面塗装には優れた耐久性、耐候性を持つ塗料を用いていますが、シンナー類やベンジンなどを使用すると塗膜が剥れるおそれがあります。
- ドアに重いものを下げると重みでドアがきしみ蝶番を壊したりドアクローザーを傷める原因になるので避けましょう。
- レールに砂や小石がたまると戸の閉めに支障をきたすので、日頃からサッシブラシなどで取り除きます。
- 2～3年を目安にゆがみや隙間がないか点検し、随時建具調整を行きましょう。

木製ドア・引き戸

- 柔らかい布で乾拭きしましょう。汚れがひどい時には住居用洗剤をぬるま湯で薄めたもので拭きます。
- 泥などが付いた場合は、水かお湯で拭き取り、その後十分に乾拭きをし、湿気を残さないようにしましょう。
- 月に1回の割合で専用ワックスを塗りましょう。



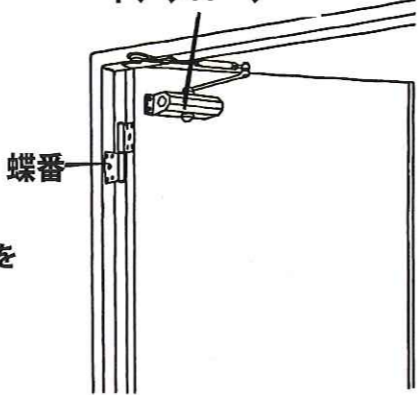
アルミ製ドア・引き戸

- 週1回の割合で柔らかい布で水拭きし、半年に1回は住宅用洗剤を薄めたもので拭きましょう。
※寒冷地では冬季の水拭きが結露や霜などの原因になることもあるので控えましょう。
※たわしやスチールウール、クレンザーなどは表面にキズが付くので使わないで下さい。

鋼製ドア・引き戸

- 流水をかけながら柔らかい布で汚れを洗い流します。汚れがひどいときは、住居用中性洗剤を薄めたもので拭きます。その後、柔らかい布でていねいに水拭き仕上げをして、洗剤と水気を拭き取ります。最後に乾拭きをします。
※寒冷地では冬季の水拭きが結露や霜などの原因になることもあるので控えましょう。
※たわしやスチールウール、クレンザーなどは表面にキズが付くので使わないで下さい。

ドアクローザー



ドアノブ・蝶番・ドアクローザー

- ドアノブは手あかで汚れているので念入りに拭きましょう。
- ドアノブのくもりが気になるときは、歯磨きや金属磨きを使用します。
- 蝶番はドアの荷重がかかるため、定期的に固定ネジを締め、回転部分にシリコンスプレーを吹き付けましょう。
- ドアクローザーは、年に2回、速度調節弁を、調整します。
※ドアクローザー内の油の軟度の違いから、夏と冬ではドアの開閉速度が違います。



ドアクローザーを調整する場合、よく取扱説明書を読んでから行って下さい。方法を誤るとドアにはさまれたりしてきけんですから注意してください。

玄関・ガレージの防犯対策

玄関はその家を印象付ける大事な「顔」です。家族が仕事や学校へ出かけ、帰ってくる場所ですし、お客様を迎える場所でもあります。家の中と外をつなぐ場所であるだけに、防犯面からも玄関周りを考える必要があります。玄関を安心な場所とするために導入を検討したい設備や、快適に使用できるドア・床材についてご説明します。

1. 玄関は家の中と外をダイレクトにつなぐ場所、防犯面での工夫を

玄関は家族が外の世界とのつながりを感じる場所です。それと同時に、外部から人や視線が入り込みやすい場所でもあります。防犯面での工夫がとても大切です。

1. センサーライトを設置し、使いやすく入りづらい玄関に

センサーライトとは、人やものの動きにセンサーが反応し自動でオン・オフする照明器具です(センサーの仕組みはメーカーや機種により異なります)。夜遅くに帰宅したとき、家人がドアキーを捜し、鍵を開ける際にもとても便利なものです。しかし、その効果は防犯面でも発揮されます。ライトがつけば、住まい手に「だれかが近づいた」と知らせてくれますし、侵入しようとした者へは「気づかれたか」と感じさせる心理的効果があります。侵入者の行動を直接的に押しとどめる力はないものの防犯面で一番大切とされる「この家は防犯にとっても気を使っている、入りにくい」と認識させる効果があります。



2. 防犯砂利で敷地に人が立ち入る音を感知

防犯砂利とは、踏み締めたときに大きな音を立てるよう工夫されたものです。より高い効果を持たせた製品ならば、その音量は約80デシベルです。80デシベルといえば、救急車のサイレンをすぐそばで聞くほどの音ですので、室内でよほど大きな音で映画や音楽を流していないはずすぐに気づくほどです。しかしながら、人が常に出入りするアプローチ部分にまで敷いてしまえば、住まい手側が防犯砂利の音に慣れてしまいます。侵入者が好む死角になりがち部分(アプローチの脇や犬走りなど)を中心に敷くとよいでしょう。



3. 液晶モニター付きインターホンで、訪問者をチェックできるように

来訪者の存在を知らせるインターホンも、液晶モニター付きにしましょう。誰が玄関にいるのかを出迎える前に知ることができますので、心構えができます。特にお子さんのいるご家庭には必須です。日頃から知らない人にはドアを開けないよう教えてはいても、玄関のドア越しでの対応では判断に迷うこともあるからです。安全なリビングで、来訪者が誰なのかがわかることが防犯につながります。

2. ガレージやカーポートも要注意

ガレージやカーポートも住まい手の出入りと言う点では玄関の延長線上にあるもので防犯面での配慮が必要です。車がなければ、「家には誰もいない」と思われてしまうこともあるからです。

1. ガレージにはシャッターをつける

ガレージは、車だけでなくスタッドレスタイヤや工具などを収納する場として使います。また壁に囲まれているので、誰かが侵入しても気づきにくいものです。盗難や不審者の侵入を防ぐために、できればシャッターをつけることをおすすめします。



2. カーポートには、二重・三重の防犯対策を

カーポートも、車のあり・なしで「狙いやすい家かどうか」が判断される場所です。「不在時でも防犯対策をしている」ことを知らせようセンサーライトや防犯カメラを設置するとよいでしょう。また、カーポートと2階のバルコニーやベランダが近ければ、家への侵入ルートを作ってしまうこともあります。敷地の問題で近くに設置せざるを得ないときは、2階から照らす位置にセンサーライトをつけたり、2階バルコニーの手すりを隠れ場所のないオープンなタイプにするといった工夫をしましょう。